

フィリピン滞在記 ①---バギオの日系人社会を訪ねて

為我井輝忠

フィリピンに来てすでに2か月が経った。10年ほど前に一度旅行でマニラ周辺を訪れたことはあったが、しかし、今度はいささか異なる。日本語を教えるという目的があり、長期の滞在である。赴任地はマニラから北に260kmほど離れたサン・フェルナンド(San Fernando)というところである。

今回は赴任してからしばらく自由な時間があつたので、何か所か旅行に出かけてみた。そのひとつは前から訪れてみたいと考えていたバギオ(Baguiο)である。ここは1500mの高地で、フィリピンの他のところが灼熱の熱帯の地でありながらも、ここは日本の10月中旬くらいの気候で、大変凌ぎやすい避暑地である。夏(3月~5月)は政府がここに移動してくるそうだ。ちょうど日本の軽井沢のような雰囲気を持っ

ていて、朝晩は寒いくらいであった。

バギオを訪ねてみたいと思った理由のひとつに、ここには戦前からたくさんの日本人が住んでいて、今もその子孫である日系人がおられるということにあった。昭和初期に日本から大勢の人々がフィリピンに来て、その多くがバギオやその近辺で農業や材木業などに従事していた。最初は季節労働者としてやって来たが、次第に移民として定住し、多くの男性が現地のフィリピン女性と結婚した。

ところが太平洋戦争が始まると、日本軍のフィリピン占領が始まり、多くの都市や町が破壊されていた。最初は日本軍の優勢が伝えられたものの、戦争末期にはアメリカ軍の猛攻撃により劣勢となり、山の中や高地に逃れて行った。その際、日本軍は現地の日本人やその家族を連れて移動していたために、多くの民間人が犠牲になった。日本軍と一緒に行動できず、取り残された人々も多くいた。彼らは日本軍のスパイと間違えられたり、捉えられた日本軍捕虜の通訳に駆り出されたりした。

戦争が終わると、日本人は強制的に日本に送還されたが、彼らの妻や子供は一緒に行くことはできずに、フィリピンに取り残された。残された人々は日本人であることを隠して生活しなければならなかった。



1930年代バギオにあった日本人経営の商店(当時の写真)



アボン(日比友好親善会館)の建物



2人の日系人女性と記念撮影(左から2人目が筆者)



日本人墓地納骨堂

そのような状態は終戦から30年以上も続いた。悲惨な状態の日系人を援助しようとして日本から一人のカトリックのシスターがバギオにやって来た。彼女の名前はシスター海野(うんの)(1911～1989)といい、1972年(昭和47)に初めてフィリピンを訪れた。もちろん最初から日系人を探し出すという目的があった訳ではないが、偶然バギオへ行く途中で現地の方から彼らのことを教えられ、彼女の運命を変えるような大きな働きをすることとなった。

シスター海野のことについてはフィリピンに来るまで全く知らなかった。1か月程前に『バギオの虹—シスター海野とフィリピン日系人の100年』(鴨野守著、アートヴィレッジ、2003)という本で彼女のことを知り、ぜひバギオに行き、彼女の足跡と日系人の方々にお会いしたいという思いを抱くようになった。それが図らずも11月1日に実現することとなった。

バギオには「北ルソン日比交流協会」という組織があり、「アボン」(小さな家、という意味)なる日比友好親善会館がある。もちろんこれらはシスター海野の働きによって結成されたもので、バギオに到着後

ここをまずは訪ねた。予告なしの初めての訪問にも関わらず、スタッフの方々が快く迎えてくれて、この会館やシスター海野のことについて説明していただき、また何人もの日系人の方々に紹介していただき、改めてバギオの日系人社会の一端を知ることが出来た。

翌日は日本人墓地へ案内して下さった。バギオ公共墓地の一部に日本人墓地がある。そんなに大きくはないが、この地で亡くなった方々の墓石が何十と立ち並んでいた。その一角にシスター海野の墓がある。小さな十字架の形をした墓石にはいつも花が手向けられ、常に人々の手で守られていると感じた。特に私が訪れた時はマニラ日本人学校の生徒たちも訪れていて、たくさんの花を供えて、墓石の文字が見えないほどであった。このような子供たちが彼女のことを知る機会となったことをうれしく思う。



花で埋もれたシスター海野のお墓

バギオ郊外には「ベンゲット・ロード」と呼ばれる道路がある。この道路は統治者がスペインからアメリカに代った1900年初頭にアメリカ人が開発を始めたが、その建設に携わったのが数千人もの日本人労働者であった。中国人を始めフィリピン人やその他の外国人労働者も多く働いたが、際立って働いていたのは日本人労働者であった。これを機に日本から大勢の移民がフィリピンへ、特にバギオへやって来た。ここからフィリピンでの日系人の歴史が始まった。

しかし、太平洋戦争勃発と戦後の苦難の歴史を経て、日系人たちの苦勞に満ちた生活が続き、やっと苦難に満ちた生活から解放されたのもシスター海野の大きな働きがあったからである。改めて彼女の業績に思いを馳せた。改めて、もっと彼女のことを知りたかったと思った。

(続く)